

「使役型てもらう」構文の 日中対照研究

——中国語母語話者の授受表現における 母語の影響——

松浦とも子

キーワード

授受補助動詞・「使役型てもらう」構文・視点・母語干渉・依頼表現

0. はじめに

中国語母語学習者に対して授受動詞を本動詞として提示する場合、物の受け手と与え手の関係をはっきり示せば、その習得はそれほど難しいものではない。しかし、補助動詞として他の動詞につき、利益、恩恵の授受関係を表す場合、文法上の制約に、意味が複雑に絡み合い、理解も運用も困難になる。「～てあげる」「～てくれる」については中国語の動詞と介詞“（注1）”によって理解することができるが、「～てもらう」に対応する中国語は一つに限られておらず、その待遇表現的な面を考慮に入れると、教科書の説明では不十分な場合が多い。

例えば、会話の場面にいない第三者への依頼表現、「保証人の方にサインをしてもらってください」などの表現は、補助動詞が連続しており、中国国内の学習者には使いにくく、「保証人の方にサインしてください」と非文を作るか、「保証人がサインしてください」と補助動詞の使用を避けて表現することが多い。原因としては、授受補助動詞が連続していることによって視点の置き方が混乱すること、母語の影響や、中級レベルの日本語教育において授受補助動詞の連続使用方法と意味についての説明、練習がほとんどされていないことが考えられる。

本稿では、奥津・徐（1981）、益岡（2001）らの分析にのっとって、「～てもらう」構文を「使役型てもらう」構文と「受動型てもらう」構文に分け、「使役型てもらう」構文に関して中国語と対照し、使役文と「～てもらう」文の相補的な関係を明らかにする。そして、中国語母語話者に実施した依頼表現に関する調査結果を分析し、中国語母語話者が「～てもらう」表現を習得する際の問題点をまとめる。

1. 「～てもらう」文と中国語「兼語式文」の構造

「～てもらう」構文に対応する中国語は、使役の意を表す“K”“M”“E”“R”“P”“T”などが相当することは、奥津・徐（1981）、中島（1994）他の研究で明らかである。これらの中国語は中国語の文法でいえば、「兼語式文」を作る動詞である。

「兼語式文」の構造は、呂他（1980）によると「述語が、前後にある二つの動詞の間に名詞がはさまれているものから成っている。この名詞は前の動詞の目的語であるとともに、後にくる動詞の主語でもあるのだから兼語といわれている」と説明されている。そして、兼語式をA、B、Cの3種類に分けているが、使役の“K”“M”“E”“R”などは、みなA類に属しており、呂はこのA類を次のように説明している。「A類の動詞₁は常に使役の意味を含む他動詞であり、動詞₂は動詞₁の結果または目的を表す」とある。

一方、授受補助動詞「～てもらう」構文も埋め込み構造^(註2)である。

この両者の例をあげると、次のようになる。

- (1) 私が太郎に歌をうたってもらう。

[私が太郎に[太郎が歌をうたう] s₂もらう] s₁

- (2) 我_K 太郎唱歌。

[我_K 太郎 [太郎唱歌] s₂] s₁

もう一点、「～てもらう」文の文法的制約とえば、人称制限がある。主語即ち「受益者」は話し手またその身内であり、目的語^(註3)は「恩恵の与え手」＝「動作主」となり、原則的にそこに一人称はあてはまらない。

- (3) *太郎は私に代わりに行ってもらった。

久野（1978）は「視点」について、文の命題で述べられている事象を観察し記述しているカメラアングルの位置であるとしている。すなわち、「視点」は事態を眺める側であり、「視点表現」とは、ある事象に関与した人物のうち、誰の立場からその事態を捉えているかという話者の位置付けを表現するものである。岡田（2000）が言うように、授受表現は視点表現の典型であり、「どこに視点をおくか」という観点と、「何を主語にするか」「何を目的語にするか」という観点が同時に必要である。日本語学習者にとって、それらを考慮して動詞を瞬時に選択することは複雑であり、特に談話における適切な運用は難しい。

一方、中国語の「兼語式文」には、(4)のように、そうした人称制限がない。

- (4) 老李_K 我去。

(*李さんが私に行ってもらった)

以上、「～てもらう」構文と中国語の「兼語式文」について、その構造と文法的制約の特徴を簡単にまとめた。次に「～てもらう」構文の意味について、先行研究を概観した上で考察を加える。

2. 「使役型てもらう」構文と中国語「兼語式文」

2.1 「使役型てもらう」構文の意味

本稿では、「～てもらう」構文の意味を、「話し手がわからの主観的表現であり、話し手が主体に身をおき、主体の視点で相手（二格）が動作主である事象の授受行為を恩恵と感

じる時に使う表現」と捉える。相手の「行為」を「恩恵」と取るかどうかは、受け手の判断ではなく、あくまでも話し手の主観による判断と考える。

「～でもらう」文は「～てやる」文「～てくれる」文と異なり、マイナスの利益を表現することはない。この理由について益岡（2001）は、「～でもらう」構文は受動構文・使役構文とが対立関係を構成し、これらの構文との間で役割を分担しているためだ、と述べている。反対に「～てやる」「～てくれる」構文は対立する構文を持たないので、非恩恵的な意味の領域への拡張を阻止する力が働かないとしている。

奥津・徐（1981）の例

（5） うわーはずかしい。先生に踊りをほめていただくなんて。

などは、要求して利益をうけるという意味は持たない、つまり「受動型でもらう」であり、

（6） その辺は旅館がなかったので、私は或る荒物屋の二階に泊めてもらった。

などは、「使役型でもらう」であるが、「～でもらう」文の中にはこのように要求の意味が読み取れる場合がかなりある。

奥津・徐（1981）では、以下の2文を比べて、

（7） a 私は彼にピアノをひいてもらった。

b 私は彼にピアノをひかせた。

これらは、いずれも埋め込み構造であり、「私」が「彼」に要求し、その結果「彼がピアノをひく」という行為が実現したという文の意味も共通しているが、「させる」を使うと尊大で強制的な感じを与える、と分析している。さらに、事実としては明らかな使役行為でも「～でもらう」が使いやすい、以下のような例を挙げ、「～でもらう」は、「その基本的意味から派生し、文脈によって使役行為の謙讓的表現になる」と述べている。

（8） a 私はきのう田中君に辞めてもらった。

b 私はきのう田中君を辞めさせた。

そして、この種の「～でもらう」文を謙讓使役文、「させる」によるものを尊大使役文と名づけている。

益岡（2001）では（8）のような対立について、「強制性の有無において対立しているのであり、恩恵性の意味を強く帯びることはない」としている。筆者はこれを、強制性の有無という観点よりも、田中に対する配慮、または田中以外の聞き手に対する意識の差と捉える。あるいは、実際の要求行為が、田中に対する配慮から、あたかも決定権が田中にあるように見せる表現^(注4)で為された結果とも考えられる。

いずれにしても、「使役型でもらう」構文は、奥津・徐（1981）で謙讓使役文と呼ばれたように、その動作・行為をする相手、また、それ以外の聞き手に配慮した表現であり、それは「～でもらう」構文の恩恵性に拠るものである。

以上、「使役型でもらう」構文と使役文について比較することにより、「～でもらう」構文の本質を確認した。

2.2 中国語「兼語式文」の人称制限

「～でもらう」構文と中国語の兼語式がいずれも埋め込み構造であることは前に述べた。使役の意味を共有するA類兼語式に用いられる動詞の中でも、特に“κ”と「～でもらう」

の対照は、奥津・徐（1981）に詳しい。“κ”が要求使役文であり、「～てもらう」が謙讓使役文である場合、両者は対応すると述べている。確かに多くの「使役型てもらう」文は“κ”に対応する。

- (9) 如果肚子痛, y是κ 医生看一看的好。
 (お腹が痛いなら、お医者さんにみてもらったほうがいい)
- (10) 那首歌是κ 小李教的。
 (あの歌は李さんに教えてもらったものです)

しかし、前述のように「～てもらう」構文の主語と目的語（動作主）における人称制限は、中国語の「兼語式文」には見られない。

繰り返して言うならば、「～てもらう」構文では主語即ち動作の受け手は、話し手自身かまたは話し手が感情移入できる身内、少なくとも動作主（与え手）より話し手に近い存在でなければならず、目的語（動作主）は、話し手である私以外でなければならない。しかし、“κ”にはそのような人称制限はないので、

- (11) 太郎κ 我L。
 (*太郎は私に行ってもらった)

という文が可能になる。では、“κ”には人称制限がないかと言えば、そうではなく、“κ”を使った表現は相手に丁寧に依頼（お願い）する表現であるから、“κ”の後ろにくる名詞（動作主）は、主語よりも目上であるほうが自然である。(11)のように“κ”の後ろに“我”が続く場合も、私が主体から丁寧に依頼されたことを表す。

しかし、次の例は、どれも主語が上司で動作の対象（相手）が部下であるため、“κ”は使いにくい。使役の動詞、“M”や“R”のほうが自然である。

- (12) 昨天, 我M 田中辞了U。
 (私はきのう田中君に辞めてもらった)
- (13) 明天起就M J 工作了。
 (明日から仕事をしてもらどうぞ)
- (14) Q 在G 上要J 出V去X京。
 (今すぐ東京に出張してもらおうよ)

日本語の「～てもらう」構文にも、その性質があり、城田（1996）の例、

- (15) 先生は昨日、A君に駅まで送ってもらったのですか。

は、「先生」がその場にいる場合、特に失礼な言い方に聞こえるのである。ただ、日本語では上司から部下への要求であっても、相手または聞き手に配慮して丁寧さを伴わなければならない場合は、「～てもらう」を使うことも多い。

高（2000）は、中国語の“κ”の性質が、ただ相手に依頼して、ある動作をするように働きかけるという使役の意味は有するが、日本語の「～てもらう」構文と違って恩恵関係を表面に出せないということから、その対応は“κ”だけでは不備であると述べ、次の表現を提案している。

- (16) 花子は太郎にパソコンを教えてもらった。
 a (?) 花子κ 太郎教wz。
 b (?) 花子M 太郎教wz。
 c (○) 花子κ 太郎教O wz。

(17) 弟はおじいさんに自転車を買ってもらった。

(○) 弟弟_M S SD 他_H 了_{-F} 自行_C。

つまり、「～てもらう」に対応する中国語の表現は、

(I) 二重目的語動詞（教のような）の場合

名詞1+κ + 名詞2+動詞2+名詞1の再帰代名詞+動詞2の目的語

(II) 一般動詞の場合

名詞1+κ /M + 名詞2+D + 名詞1の再帰代名詞+動詞2+目的語

として、動作の相手を表す介詞“D”により方向を示し、さらに再帰代名詞“他”を用いて恩恵の着点を示し、恩恵感をはっきり表現しようとしている点は同意できる。

2.3 中国語「兼語式文」のアスペクト表現

森田（2002）では、次の例を挙げて、依頼された相手が了解済みか否かの問題を考察している。

(18) (私は) 妹に荷物を受け取りに行ってもらいます。

「～てもらう」が非過去形であれば、私の一存であり、仕手の妹は未承知であるとしている。超時（習慣、繰り返し行為）の場合、むしろ非了解事項とあるが、どちらともとれる場合もあるだろう。そして、過去形の場合は当然、了解事項である。

(19) (私は) 妹に荷物を受け取りに行ってもらいました。

つまり、「～てもらう」の場合は主体の意志だけの表現であるが、「～てもらった」になると、既に相手（動作主）の了解を得ているということになる。つまり、「～てもらう」構文が非過去形であれば、それは主語の要求意志を表すので「使役型てもらう」となり、「受動型てもらう」文の意味はもたないといえることができる。

(20) *私はきのう彼に助けてもらったが、彼は受け入れなかった。

が非文になるのは、「～てもらった」が既に相手（動作主）の了解を受け入れていることを含むからである。奥津・徐（1981）では以下の例を挙げ、中国語と対照している。

(21) *我昨天κ 他B 了忙、他没有答a。

(*私はきのう彼に助けてもらったが、彼は受け入れなかった)

(22) 我昨天κ 了他B 忙、他没有答a。

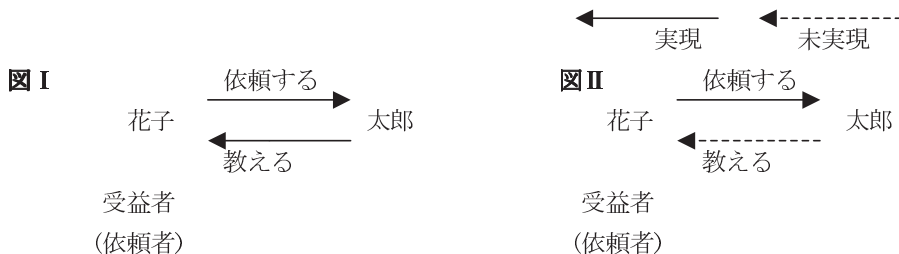
(私はきのう助けてくれるように彼にたのんだが、彼は受け入れなかった)

奥津・徐（1981）は、“κ”を目的の“κ”と結果の“κ”に分け、その区別を時制詞“了”の位置でみようとしている。つまり（21）は“B”の後に“了”がついているので、補文の内容は実現したと解釈され、後文との意味の矛盾から非文となる。（22）は“κ”のすぐ後に“了”がついていることから、要求行為の実現は示すが、補文内容の実現は示さない。そのため、日本語訳には「～ように」が現れる。奥津・徐（1981）では、「目的の“κ”の場合は「～てもらう」に訳すことはできない」と述べている。しかし、実は「～てもらうつもりだ」「～てもらいたい」などのように「～てもらう」に意志表現を後続させれば対応は可能なのである。日本語学習者が「～てもらう」に後続する助動詞、補助動詞の表現のバリエーションを使うことによって、両言語の対応が広がり表現が豊かになるのである。

中国語では副詞が主として時制を表すので、事態助詞“了”は必要十分な要素ではない。

よって、それを補文の実現のマーカーとして捉えることは難しいものの、日本語学習者が理解する際のひとつの指標にはなる。

ここで高（2000）を参考に、下記の図を使って考える。



図Ⅰは、主体の要求に対して結果を得たことを含むものであるが、上に見たように、「～てもらう」構文が現在形の場合は結果が伴わず、図Ⅱのようになる。それでも、先に定めた「～てもらう」構文の性質を、「話し手がわからの主観的表現であり、話し手が主体に身をおき、主体の視点で動作主の授受行為を「恩恵」と感じる時、その気持ちを表現したい時に使う表現」として確認するなら、花子（主体）は要求内容の実現、未実現に関わらず、やはり（話し手が捉える）受益者とすることができる。

そこで、図Ⅱに対応する中国語を見ると、

(23) 花子_K 太郎教_O英_b。(花子は太郎に英語を教えてくれるように頼んだ)
が、対応することになる。

次に先の図Ⅰに対応する

(24) 花子_K 太郎教_O 英_b。(花子は太郎に英語を教えてもらった)

(25) 弟弟_M S SD 他_H 了_F 自行_C。

(弟はおじいさんに自転車を買ってもらった)

と、補文内容の実現を示す時制詞“了”のついた文を比べてみる。

(26) 花子_K 太郎教_O了_F英_b。

(27) 弟弟_M S S H了_F 自行_C。

(24) では、太郎が花子に英語を教えたことがわかるが、(26) では、太郎は花子に頼まれて誰に英語を教えたのが明確ではない。(27) も同様であり、祖父が自転車を買って与えた相手が誰なのかわからない。

日本語の「～てもらう」構文でも、このような文は多く文脈から判断するしかない。

(28) ？弟は祖父に妹に自転車を買ってもらった。

格助詞「に」が続く場合、もとなる動詞（ここでは「買う」）の対象と動作主の区別がわかりにくくなるので、表現を工夫する必要がある。これについては、豊田（1974）でも、その対象をはっきりさせるために、話し手が格助詞「から」や「たのむ」ということばで置き換えることを指摘している。

以上、「使役型てもらう」構文と中国語「兼語式文」の対照結果は次のようになる。

対照結果

1. 中国語「兼語式文」において“K”が要求使役文で使われている場合、「使役型てもら

う」構文と対応する。

2. 中国語「兼語式文」には補文の主語に私または身内がこないという「てもらう」文のような人称制限はないが、相手（動作主）が目下の場合などは“κ”が使いにくい。それに対して、「使役型でもらう」は、相手または聞き手に配慮して、相手が目下でも使用することがある。
3. 「使役型でもらう」構文は現在形の場合、相手（動作主）が未承知の可能性がある。中国語「兼語式文」では“了”の位置でテンス、アスペクトを表現できるが、略されることも多い。
4. 中国語「兼語式文」で恩恵関係を明確にするためには、“κ”だけでは不十分である。動作の対象を示す介詞“d”を以って補足しなければならない。
5. 日本語では目的語が重なった場合には、「頼む」などで言い替えるが、中国語では兼語式のまま表現する。

3. 「使役型でもらう」構文の習得調査

3.1 調査内容と対象者

本稿では、上記の対照結果を踏まえ、「使役型でもらう」の後に働きかけの表現が続くケースについて、中国語母語話者50名の調査データを分析する。

被調査者 I グループ 中国国内の日本語学習者（日本語能力試験一級取得者、日本滞在経験なし、二校混合） 25名

II グループ 日本滞在期間六ヶ月以上五年以下（平均2年1ヵ月）の学習者（学習期間にはばらつきがあるが、少なくとも中国の大学で日本語を学習した後、留学している） 25名

調査方法は、被調査者に中国語で書かれた場面状況を読ませ、その状況に自分が置かれたと仮定して日本語で発話させ、録音するという方法をとった。その際、回答に授受補助動詞が現れやすいように、文頭の単語は既に問題用紙上に書かれてあるので、その後に助詞を加え、文を続けて発話させる。授受表現を使う指示は一切しない。あまり時間をかけないで、答えるように促した。問題文の中国語には、できるだけ使役の表現が直接的に出現しないように配慮したが、間接的に使わざるをえない場合もあった。日本語の訳文は、実際の問題用紙には書かれていない。

口頭調査にした理由は、発話前に考える時間を短くし実際の場面に近い発話データを収集するため、またポーズ、フィラー、言い直しなどの出現により、学習者の迷い、問題の難度を測れると予想したからである。

結果は、当然のことながら、エラーの有無に関わらず、様々な表現を駆使し、その状況を解決しようとする学習者のストラテジーがうかがえ、類別はしにくいが生に近いデータの収集ができたと考える。状況設定の中国語に回答が影響されるかとも危惧されたが、問題文上に、できる限り直接的表現を避けたせいか、影響はあまり見られなかった。

分析はエラーの発生数が問題ではなく、「使役型でもらう」構文の使用を含む働きかけの表現がどのように使用されているか、またどのようなエラーが多く、それは母語の干渉を受けている結果かどうかを見ることにある。エラーの発生数が問題ではないが、「使役

型でもらう」構文＋働きかけの表現使用に慣れていないことによって、エラーを産み、相手が理解できなかつたら、「～でもらう」によって恩恵、感謝を表したいという意図も聞き手には伝わらなくなってしまう。本稿では、助詞の選択、動詞変化など文法的なエラーに加えて、文法的には正しいが話し手の意図が表現できていない場合もエラーとみなした。

調査は全8問13表現について実施したが、本稿でははそのうち2問（情景2と情景5）に対する回答をデータとする。習得についての分析をする際、ポーズ、言い淀み、言い直しもデータとして活用するが、本稿の資料には記載しない。

問 題

注:()内の日本語訳の部分は被験者のテスト用紙上には現れない。

情景2, 你是公司职员。下午顾客公司的总经理带着几个人来商量工作。你想用会议室, 但上午另一部门用过这个会议室, 所以还没有收拾好。公司有搞卫生的人(山田さん)。你怎样吩咐部下B找山田来收拾会议室?

(あなたは会社員です。午後得意先の会社の人たちが商談に来る予定です。あなたは会議室を使いたいのですが、午前他の部署で会議室を使ったらしく会議室はまだ片付いていません。会社には清掃係の山田さんがいます。部下のBさんに言って、山田さんに部屋を片付けさせるようにしてください。)

あなた「B君、午後会議室を使いたいのので_____」

B 「はい、わかりました」

情景5, 公司的电脑坏了, 你向部长汇报此状况, 部长指示道: 你叫有关人员修理一下。

(会社のコンピューターが壊れました。あなたがそれを部長に報告すると部長は係りの者に修理させるように言いました)

あなた「部長、コンピューターが_____ 5-A」

部長 「それじゃ、技術部の誰か_____ 5-B」

你委托你的同事, 技术部的小李, 修理电脑。小李答应了。

(あなたは同僚である技術部の李さんに修理を依頼しました)

あなた「李さん、忙しいところ悪いけど、_____ 5-C」

李さん「いいよ」

课长看一下你的桌子上没有电脑, 就问

(課長はあなたの机の上にコンピューターがないのを見て、聞きました)

課長 「あれ、コンピューターはどうしたの？」

あなた「修理部の李さん_____ 5-D」

3.2 テスト結果と分析

下記表1は、出題のねらい、つまり「使役型でもらう」構文を含んだ表現の予想回答、及び回答結果のエラー率と「もらう系」（「もらう」＋「いただく」）表現使用率である。

「もらう系」表現使用率については、動作主に対して「もらう系」表現を使う意図、つまり恩恵、配慮の意識に着目するため、エラーのものを含んで処理している。また「もらう」「くれる」の互換性が強い表現（5-C, Dの依頼表現）に関しては、「くれる」も加えての使用率にした。

表 1

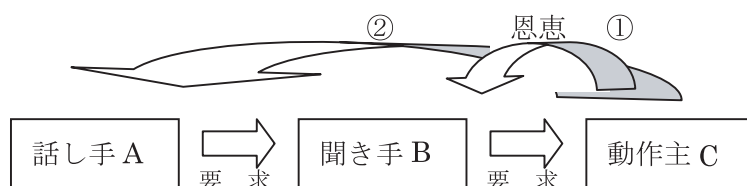
(%)

情景	使用表現の種類	表 現 例	エラー率		もらう系使用率	
			I	II	I	II
2	もらう＋要求・依頼	～てもらってください	64	36	20	32
5-B	もらう＋提案・意志	～もらって	40	32	56	48
5-C	もらう＋願望・可能	～もらえませんか	20	16	88	84
5-D	もらう＋アスペクト	～もらっています	64	12	40	32

【情景2】 「午後会議室を使いたいので、山田さん_____。」

「山田さんに掃除してもらってください」「山田さん呼んで掃除させてください」ほか考えられる。

話し手Aが聞き手Bに他者Cへの働きかけを促す表現であるが、この場合、モノの移動はなく、恩恵の受け手は聞き手B①、或いは話し手A自身②ともとれる。遂行したいことは、清掃係りの山田さんに掃除をさせることだが、行為者（山田さん）への配慮から「～てもらう」の使用可能性がある。



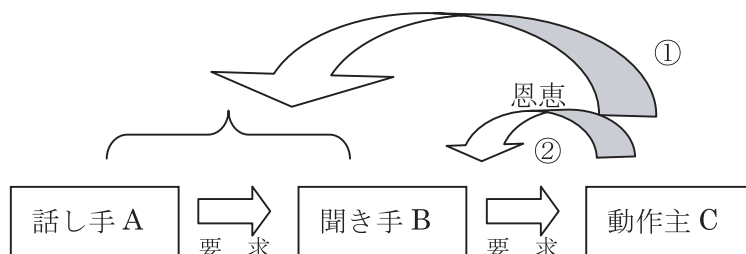
行為者（山田さん）への配慮から「～てもらう」の使用可能性があるが、学習者にその表現は少ない。「～とってください」「～と伝えてください」のように、聞き手Aから行為者Cへの伝言を聞き手Bに伝えさせるという形が多くみられた。補助動詞の重なりを避けるためとも考えられる。Xのように「山田さんに頼んでください」など、その内容を表さずに終わっている不十分な表現も多かった。

情景2. 午後会議室を使いたいので山田さん _____ (人)

		助詞		I グループ	II グループ
エラー無	1	に	～と伝えておいていただきたいと思います ～と言ってください	5	5
	2	に	片付けて <u>もらってください</u>	1	5
	3	に	頼んで片付けてください	1	1
	4	に	掃除することをお願いしたい / 片づけを頼んでください	1	2
	5	に	片付けさせてもらいたいんですが	1	1
	6	を	探して掃除して <u>もらってください</u>	0	1
	7	に	掃除させてください	0	1
エラー有	X	に	頼んでください / 言ってください / 探してください	5	4
	Y		文法的には正しいが話し手の意図が表現できていない	4	3
	Z		文法的な間違い	7	2

【情景5-B】 「それじゃ技術部の誰か _____。」

「それじゃ、技術部の誰か」に続く助詞に「に」を選んだ場合、更に続く文は「修理させていただきます」「修理してもらってください」「修理を頼んでください」などが考えられる。依頼の図式は下図のようになるが、話し手が恩恵の受け手を誰と考えているかで表現が異なる。Cの動作によってA、Bともに恩恵を受けると判断した場合は「もらいましょう」①になり、Bのみが受ける恩恵を表す場合は「もらってください」②になる。



中国国内の学習者4名は「もらいましょう」を使い、①の解釈をしたとも考えられるが、「～てもらおう」に続く助動詞の選択にあたって、簡単な「ましょう」を選んだとも考えられる。「～てもらいます」の言い切りが4名いる。中国語では、“那k 技N 部のA修一下”となり、“D ～”で指定しなければ、恩恵の受け手に自分を含むか否かは明確化しない。また、語気を和らげる終助詞“A”が「ましょう」と直訳されている可能性もある。

「誰か」に続く助詞が抜けるミスが多い。中国語では現れにくい表現なので、助詞を落としてしまう可能性がある。

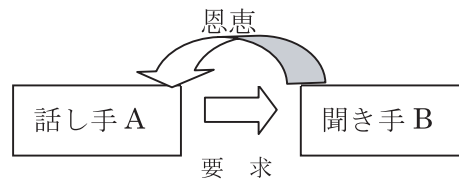
情景5-B. それじゃ、技術部の誰か _____

(人)

		助詞		I グループ	II グループ
エラー無	1	に	頼めばいいんじゃない / 頼んでおいて / 頼んでください	2	7
	2	に	修理してもらったら? / 直してもらったらいじゃない	1	5
	3	に	直してもらおうか / 修理してもらいましょう /	4	1
	4	に	直してもらいます	4	0
	5	に	修理させましょうか / 修理させてください	1	1
	6	に	言って修理してくれない?	2	0
	7	に	直してもらったほうがいい	0	1
	8	に	修理してもらってください	0	1
	9	が	修理してください	0	1
	10	に	修理してくださいと言ってください	1	0
エラー有	Y		文法的には正しいが話し手の意図が表現できていない	1	5
	Z		文法的な間違い	9	3

【情景5-C】 「忙しいところ悪いけど _____。」

「忙しいところ悪いけど」の後には、事情説明がおかれ、次に相手Bに対しての直接の依頼表現がくる。可能性としては「修理してくれませんか」「修理してもらえませんか」「修理してもらいたんですが」「修理を頼めますか」「修理をお願いします」などが考えられる。



問題文には、依頼相手は同僚であると明記してあるので、II グループでの敬語使用は少ないが、I グループには多く見られる。I グループのエラーには「もらいませんか」のように、可能形になっていないものが複数含まれており、「もらえませんか」の使用が0であることを見ても、中国国内の学習者は依頼表現の中でも「～てもらえませんか」の練習が不足していると考えられる。

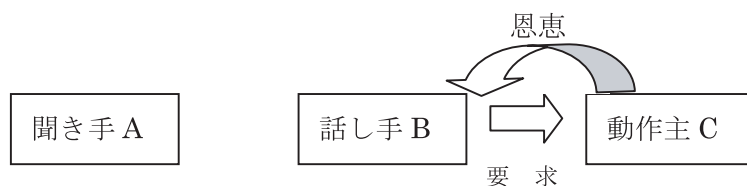
情景5－C．忙しいところ悪いけど _____

(人)

	No.		I グループ	II グループ
エラー無	1	直してもらえませんか / 修理して <u>もらいたいんですが</u> <u>直してもらってもいいですか</u>	3	10 2
	2	修理してくれませんか / 見てくれませんか	4	3
	3	見て <u>いただきたい</u> と思います / 修理して <u>いただけ</u> ませんか	6	3
	4	修理してくださいませんか	3	0
	5	助けて <u>もらいたい</u> んですが / 助けてくれませんか	2	1
	6	困っているんですが	1	0
	7	お願いします	1	1
	8	直してください	0	1
エラー有	Y	文法的には正しいが話し手の意図が表現できていない	3	1
	Z	文法的な間違い	2	3

【情景5－D】 「修理部の李さん _____。」

話し手が他者に依頼した内容・状況を聞き手に報告している。「修理部の李さん」に続く助詞に「に」を選べば「修理させています」「直してもらっています」「頼んでいます」など、「が」を選べば「修理してくれています」「直しているところです」などが続くと考えられる。



ここでは、テンス、アスペクトの問題が絡んでくる。Cに依頼したのは過去であるが、依頼内容は完了していないことを表現する必要がある。I グループにおいて過去時制にして完了させてしまったものは誤用を含めると6名で、「～てもらいます」のようにまだ依頼していない形にしてしまったものは5名いた。「修理してー、もらいました、もらいます」または「もらいます、もらい、もらうところです」の言い直しが見られる学生もI グループに多く見られた。中国語に訳すと、例えば“我M 小李拿去修理了”のように“了”によって、依頼が完了したことは表すが、まだ修理中であるということは表さないなので、日本語を考える場合、迷いが生じるのだと思われる。

情景5-D. 修理部の李さん _____

(人)

		助詞		I	II
エラー無	1	に	修理してもらっています / 修理してもらっているところです	3	7
	2	に	頼んで今修理中ですよ / 頼んで修理しているところです	1	5
	3	に	預けています / (が) 持っていきました	3	3
	4	が	今修理しているところです	2	3
	5	に	修理を頼んでおきました / 修理を頼んでいるのです	0	3
	6	に	頼んでいるんです	0	1
エラー有	X	に	修理してもらいます / 修理してもらいました	5/3	0/2
	Y		文法的には正しいが話し手の意図が表現できていない	0	0
	Z		文法的な間違い	8	1

3.3 まとめ

本稿でとりあげた被験者数は、量的に少なく、このテスト結果を一般化するには無理があるが、中国語との対照を通して、母語干渉の傾向が少なからず掴められると思われる。分析をまとめると以下になる。

1. 中国国内の学習者は、日本語能力試験一級取得者レベルであっても、「～てめらう」の運用に関し、特に方向性を持つ補助動詞の連続使用を回避する傾向がある。一方、日本での習得期間のある学習者は、補助動詞を重ねて使うことも自然になっていく。
2. 中国国内の学習者も、相手または聞き手を配慮した日本語での使役の方法を理解しているようである。その点では、母語の使役態の影響を直接は受けていないといえる。
3. 話し手と聞き手がいて、他者へはたらきかける場合、直接話法や「～と頼む」などの表現を組み合わせ、表現をシンプルな形にする傾向がある。
4. 中国国内の学習者は中国語の語気を和らげる終助詞“A”や要求動詞“K”の直接訳をそのまま使用して非文を作っている可能性もある。日本での習得期間があると、その現象は少ない。
5. 相手や用件のレベルに関わらず、依頼表現の際、敬語を使用して「～ていただけませんか」などの表現をすることが中国国内の学習者に多い。敬語の会話練習において依頼表現が重点的に行われている影響かと思われる。
6. 「～てめえませんか」を「～てめえませんか」と発音している中国国内の学習者が少なくなかった。
7. 中国語は時制の表現に細かく気を配らないので、依頼が完了したことと、その依頼内容の完了との関係、「～てめらう」文におけるアスペクトについて、混乱して表現している中国国内の学習者が多い。このような場面練習はしていない可能性が高い。
8. 文頭の名詞に続く助詞をすぐに選定し、その後、ポーズ、フィラー、言い替えが多くなる。続く表現を選ぶ前に、文頭の名詞が依頼の相手などの場合、「に」格をとるという判断が先に働いていると考えられる。

以上、先の対照結果から予測される母語干渉の結果を3や7に見ることができる。その他

の結果から、特に中国国内の学習者は、「～てもらう」構文の練習が少なく、使い慣れていないことが伺える。「～てもらう」構文に働きかけの補助動詞が続くフォームは、来日以後に習得しているケースが多いと考えられる。

4. 今後の課題

今回のテストで問題になった「～てもらう」の後ろに更に方向性のある補助動詞が続く表現について分析し、質量ともに、レベルを上げてテストを続ける予定である。補助動詞の連続使用については、スキーマなど認知的なメカニズムからのアプローチも試みるべきだと思われる。また、「受動型てもらう文」について中国語との対照を通して、受動態との相補的な関係を明らかにしたい。そして、母語にない表現の対照研究結果を、教材や教授法に生かす方法を考えたい。

注

- 1) 介詞は、英語の前置詞に相当。“D” は、「～に対してあげる」に近い意味を持つ。
- 2) 主文の中に補分が構成素として組み込まれている文構造。
- 3) 本稿では、この目的語を補文の主語ということもある。
- 4) 「あたかも表現」は川口・蒲谷・坂本（1989）で提唱されている。

参考文献

- 奥津敬一郎・徐昌華（1981）『『てもらう』とそれに対応する中国語表現』『日本語教育』46
- 奥津敬一郎（1984）「授受動詞文の構造」『金田一春彦博士古希記念論文集』三省堂
- 益岡隆志（2001）「日本語における授受動詞と恩恵性」『言語』356
- 益岡隆志（2000）『日本語文法の諸相』くろしお出版
- 中島悦子（1994）「使役・てもらう・ように構文と『譲』構文」『国文目白』33
- 呂叔湘（1984）『現代漢語八百詞』白帝社
- 菊地康人（1993）「日本語教育のための基礎研究」東京大学留学生センター紀要3
- 久野暲（1978）『談話の文法』大修館
- 豊田豊子（1974）「補助動詞「やる・くれる・もらう」について」『日本語学校論集』1
- 山橋幸子（2002）「補助動詞「てやる/あげる」考」『比較文化論叢』9
- 城田俊（1996）「話場応接態 外主語と内主語」『国語学』186
- 高見健一（2001）「被害受身文と「～にVしてもらう」構文」『日本語学』222
- 高靖（2002）「現代日本語のヤリモライに対する中国語の訳について」『日本文学論集』26
- 岡田久美（1997）「授受動詞の使用状況の分析」『平成9年度日本語教育学会春季大会予稿集』
- 楊凱榮（1989）『日本語と中国語の使役表現に関する対照研究』くろしお出版
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵（1998）『敬語表現』大修館書店
- 森田良行（2002）『日本語文法の諸相』ひつじ書房
- 豊田豊子（1974）「補助動詞「やる・くれる・もらう」について」『日本語学校論集』1